

現役行司の入門アンケート調査

根間弘海*

I はじめに¹⁾

本稿は現役行司に行ったアンケート調査の報告である。アンケートでは26項目について質問しているが、主として次のことにポイントを置いている。

- (1) 行司になった動機は何か。
- (2) 相撲部屋はどのように選択したか。
- (3) 入門後の行司生活はどうだったか。

ついでに、次のことも簡単に調査している。

- (1) 入門の頃、団扇は誰からもらったか。
- (2) 現在、行司装束は何着持っているか。

質問はすべてプライベートに関わることだが、公表しても特に差し障りがないものと考えている。これくらいのプライベートのことなら、過去においても自伝や雑誌対談で行司自ら語っているからである²⁾。

行司は2, 3名を除いて、中学卒業かその何か月後かに入門している。その動機は行司一人一人異なる。行司は各自育った環境が違うし、考え方も違うからである。その動機を数行で表現するようにアンケートでは求めている。これは厳しい要求だが、回答する瞬間に思い浮かんだものであり、真実の一部であるに違いない。アンケートの質問事項には、後で回答すれば他のことを書いたかもしれないようなものもある。そのような変動があることを承知の上で、アンケートの回答は捉えればよい。また、アンケートの中には正直に回答していないものもあるかもしれない。個人の触れた

*専修大学経営学部教授

くない部分まで立ち入る必要はまったくない。大体の傾向を把握するのが調査の目的なので、全体像がある程度理解できる回答が得られれば、それで十分である。

なぜこのようなアンケートを実施したかと言えば、行司入門があまりにも早い段階で行われるからである。行司はほとんど、中学卒と同時に入門している。このような若い時期に自分の人生で何をするかを決めている。すなわち、職業としての行司を選択している。親の押し付けで行司の道歩んだのだろうか、それとも自発的に選択したのだろうか。中には高校中退や高校を卒業して入門した者もいる。このような行司は自分で決断したと推測できる。しかし、その推測は本当に正しいだろうか。そういったことを行司自身に確認して見たかった。

戦前までは家が貧乏だったために、行司になることが多かった。中には家が裕福でも相撲が好きで、行司の道を選択した者もいた。しかし、昭和40年頃からは、たとえ家が貧しくても、食うことで困ることは少なくなった。本人さえ希望すれば、高校進学もできるようになった。そういう裕福な時代に高校進学を止めて、中学を卒業するのを待ちかねたように、行司の道に進む者たちがいる。現役の行司たちに直に聞けば、その理由が分かるはずだ。数人の行司をサンプルとしてピックアップし、その人たちに直接尋ねればその理由がある程度分かるかもしれない。そう思ったこともある。また、全員にアンケートを実施し、各行司の考えを確認するのも一つの方法である。現役の行司はいずれ三役そして立行司と昇格し、雑誌や小冊子などで行司入門の経緯などについても語ることがあるかもしれない。しかし、それはずっと将来のことである。現時点で、現役の行司に直に尋ねることができれば、それに越したことはない。少なくとも多くの行司の入門時の経緯がある程度把握できるはずだ。しかも、将来、全員が立行司になるとはかぎらない。中には入門の動機や経緯を公的にすることなく行司を止めざるを得ない者もいるかもしれない。機会があれば、行司全員にそれを確認しておきたかった。その機会が立行司（35代木村庄之助）のおかげで意外に早く訪れた。平成22年5月場所中である。

アンケートの回答は半数くらいあれば、目的は十分達成できると考えていた。しかし、実際は、半数をはるかに超えて、32人が回答してくれた。これは期待以上の数である。立行司が行司監督にお声をかけてくださったお陰である。行司監督は各行司に協力するように呼び掛けてくれた。立行司はまた、行司全員の集まりでそのようなアンケート調査が行われることも説明している。立行司や行司監督のお声があったおかげで、アンケート調査の回収率は予測をはるかに超えている。未回収の用紙も催促すれば回収できたはずだが、そのような催促は遠慮した。

因みに、行司になるには一定の手続きがある。日本相撲協会寄附行為施行細則の「第64章 年寄・力士・行司およびその他」に次のように規定されている。

- ・第64条 行司の採用は、次による。(昭和51年1月改正)
 1. 行司の新規採用は、義務教育を修了した満19歳までの男子で、適格と認められる者から行う。(昭和53年1月改正)
 2. 行司の新規採用者に対して、3年間見習として養成期間をおく。但し、行司の階級順位により番付編成することは妨げない。
- ・第65条 幕下以下の行司は、行司養成員とし、師匠である年寄（立行司を含む）が養成に当るものとする。行司実務については、立行司ならびに行司会委員がその指導に当るものとする。十枚目以上の行司は、自己の人格の陶冶・技量の練磨に努めなければならない。

細則規則には両親や親権者の承諾については規定されていないが、これは、おそらく、力士の新規採用に伴う規定（第54条）を踏襲していると思われる。それによると、親権者の承諾書・戸籍謄本または抄本・医師の健康診断書をそえて協会に提出しなければならない³⁾。

行司に入門する者は部屋の所属が決まると、師匠や一門の先輩行司（普通は最も格上の行司）から行司会に連絡する⁴⁾。行司会には立行司の下に行司監督がいて、行司監督は立行司と相談しながら、人事を進める。行司監督は協会とも連絡し、面接日の調整をする。面接に出席する者は、普通、行司監督一名、一門の先輩行司、部屋の師匠、それに事業部長である。所属する部屋に行司がいても、一門に格上の先輩がいたら、その先輩行司が面接に出席する。時には、理事長が直々面接に出席することもある。出席しない場合は、面接の後で、入門志願者は理事長に会う。理事長との面接は激励の場となることが多いようだ。

なお、入門者の手続きに関しては、金指著『相撲大事典』（2002）にも詳しく記されている。

「手続きは、各相撲部屋に入門して、履歴書、保護者の承諾書、住民票、戸籍謄（抄）本と、師匠および行司会会長連名の採用願、行司会会長の添え状を協会に提出し、理事会の承認を受けなければならない。また、健康診断も受ける。」（p.86）

これは入門に際し、用意する書類である。面接を受ける前に、これらの書類を提出するのが普通である。

II アンケートの質問項目

アンケートを実施する際は、事前に立行司・木村庄之助にアンケート実施の趣旨を説明し、質問事項を記した用紙を後で郵送した。プライバシーに関する事項があれば、削除するつもりだったが、用紙の事項であれば大丈夫だという了承を得た。その趣旨と質問事項を書いた用紙をプリントし、両国の行司部屋に持参し、立行司に手渡した。立行司はその用紙を各行司に配布するよう行司監督に指示した。事前に行司監督には伝えてあったので、配布はスムーズに行われた。配布した趣旨と質問事項を次に示す。

(1) 配布したアンケートの趣旨

2010年5月9日
根間弘海（専修大学教授）

※このアンケート調査に関しては、事前に質問事項と共に調査の趣旨を庄之助親方に説明し、親方の許可を受けてあります。よろしくご協力のほどお願いします。

入門時の頃を振り返るアンケート項目

行司になるには、いろいろと入門前に考えたと思います。いざ行司になることを決定すると、相撲部屋と連絡したり、さまざまな手続きを踏んだりします。そのような経験がどの行司にもあるので、今回は「入門時の頃」を思い出して、アンケートにお答えくださることを願っています。

皆さんはこれまでも「なぜ行司になったのですか」とよく尋ねられたと思います。私は次のような理由を読んだことがあります。たとえば、(a)相撲が好きだから、(b)力士になるには体が小さかったから、(c)親に勧められたから、(d)勉強が嫌いだったから、などです。行司になる理由は、実際は、行司の数だけあるはずですが、今回、具体的にその理由を調べてみようと思いました。これまで言われてきたことの確認だけに終わるのか、新しい発見があるのかは、調べてみないと分かりません。

調査した結果、2、30ページくらいにまとめることができれば、平成23年度に大学の紀要で発表します。しかし、これまで言われてきたものとあまり変わらなければ、発表は遠慮するかもしれません。各自がまじめに記入してくだされば、よい調査結果が得られるものと期待しています。

アンケートの内容は別紙にあります。中には、具体的に記入する箇所があります。できるだけ詳しく記入してください。時間を割いてゆっくり記入していただきたいので、回収は急いでいません。場所中でも場所後でもよろしいので、記入後、切手が貼ってある封書にアンケート用紙を入れ、近くの郵便受けに投函してください。

なお、申し訳ないですが、このアンケート調査にご協力くださっても謝礼をお支払いできません。アンケート結果を活字にするときは、プライバシー保護のため、行司名以外の人名はできるだけ記さないようにします。

以上

(2) アンケートの質問事項

○記入するスペースが足りなければ、余白や裏面を利用してください。正確さを期すため、質問項目をやや多めにしています。時間的余裕があるときに、ご記入ください。

- (a) 行司名：() (b) 位階：() 格
(c) 所属部屋：() 部屋 (d) 初土俵の年月：()

- なぜ行司になったか。できるだけ詳しく記入してください。
- いつ頃、行司になろうと決めましたか。
- 行司に入門する前は、誰に相談しましたか。
- 両親は行司になることに同意しましたか。
- 両親が同意しなくても、行司になるつもりでしたか。
- なぜ現在の相撲部屋を選んだのですか。詳しく記入してください。
- 行司になるために初めて相撲部屋を訪ねたとき、一人で行きましたか。○で囲む。
(a) はい (b) いいえ
- ((7)で「いいえ」と答えた方へ) 誰と一緒に行きましたか。
- 入門したのはいつですか。○で囲む。(高校中退の方は、次の(11)で答えてください。)
(a) 中学卒業後すぐ(4月) (b) 中学卒業後しばらくしてから(5月以降)
- ((9)で「中学卒業後しばらくしてから」を選んだ方へ) 何カ月後あるいは何年後に入門しましたか。

を次に示す。

- (1) 質問事項の(3)から(5)は、一つにまとめて(3)として記すことにした。そのため、この個所は表現を少し変えてある。(4)では「両親は行司になることに同意しましたか。」とあり、(5)では「両親が同意しなくても、行司になるつもりでしたか。」とあるが、同意しなかった場合、「両親が同意しなくても、私は行司になるつもりでした」といった表現にしてある。
- (2) 質問事項の(7)から(11)は、ほとんどの場合、省略することにした。行司は2, 3名を除いて、中学卒業時かその直後に入門している。高校を卒業した後や高校中退で入門している行司は非常に少ない。そのような例外的ケースは取り上げてある。
- (3) 質問事項の(14)や(15)は、回答にばらつきがある。実際はさまざまな体験をしているはずだが、記入するとなると、思い出は走馬灯のように浮かぶのであろう。特に(15)は相撲に限らず、集団生活の辛さはどの場合でも当てはまるはずだ。そのため、この質問事項は省略してもかまわない。しかし、アンケートに記入してあるものはできるだけ取り上げることにした。
- (4) 質問事項の(19)から(21)は、ほとんどの行司にとって答えようのないものである。なぜなら実際に脱走した経験のある行司は非常に少ないからである。しかし、実際に雲隠れしながら、部屋に戻った行司も2, 3名いる。これは正直な記述であり、誠実さが感じられる。実際に脱走したまま部屋に戻らない行司もたくさんいる。脱走して部屋に戻らない行司はほとんどの場合、幕下以下の行司である。このような行司はアンケートの対象になっていない。
- (5) 質問事項の(22)から(26)は、必ずしも入門時に限られるものではない。これらの事項は参考程度のもついで尋ねることにした。特に(22)はある程度予測のできる質問事項である。最初に団扇や装束を贈呈するのは部屋の兄弟子、部屋の師匠、一門行司の兄弟子等である。その後で、自分で作ったり、部屋の師匠や知人等が贈呈したりする。いずれにしても、質問事項の(22)から(26)は入門時だけでなく、その後の行司生活に深く関わっている。その意味では、必ずしも適切な質問ではない。

これらの質問項目には行司によって空白や未記入があるので、取り上げる場合は「空白」とか「未記入」としてある。以下では、32人の回答をできるだけ忠実に示してある。括弧の番号は質問事項の番号に対応する。

1. 木村庄之助（立行司）、立浪部屋、初場所：昭和37年5月。

- (1) 小学校3年生の時、兄が当時の横綱、大関の名前を教えてくださいました。そこで初めて大相撲を知り、ファンになりました。その後、ラジオで大相撲放送を聞き夢中になりました。将来は相撲関係の仕事がしたいと思い、その中でも行司が一番よいと思いました。
- (2) 中学校2年生（昭和36年）。
- (3) 地元でチャンコ店経営の松恵さんに相談して、松恵さんが当時の行司部屋に行き、当時の23代木村庄之助さんをお願いして入門しました。父は反対し、母は賛成しましたが、私は絶対に行司になるつもりでした。
- (6) 元松恵山さんが（十両）立浪部屋所属の関係で、立浪部屋になりました。
- (12) 入門前から厳しい社会は覚悟しておりましたので、あまり変わりませんでした。
- (13) 食事中、先輩行のお給仕。正座して、3時間から4時間。

- (14) 別になし。
- (15) 別になし。
- (16) 8カ月後。
- (17) 平成12年から13年頃、精神的疲労（土俵上でミスが続いたため）
- (18) いいえ。
- (22) 地元の有志。
- (23) はい。
- (24) 雷親方の知人で、東京在住の菅素祥さん。
- (25) はい。
- (26) 全部で20着。本場所用15着と巡業用5着。

2. 式守伊之助（立行司）、井筒部屋、初土俵：昭和39年5月場所。

- (1) 枕崎出身の井筒部屋所属の元力士と両親が知り合いで、当時の三役格行司式守勘太夫（後の26代木村庄之助）に行司の志願者を探してほしいと依頼されて、当時15歳の私に両親、学校を通じて話がありました。
- (2) 話があったその年、昭和38年12月の暮れ。
- (3) 当時担任の先生。両親は行司になることに同意しました。両親が同意しなければ、行司は諦めるつもりでした。
- (6) 当時の鶴ヶ嶺（後の井筒三兄弟の父）は郷土の大英雄ということで、私自身もファンでしたので、迷わずに決めました。
- (12) 見た目と現実とは全然違って朝から晩まで修業の毎日だったような記憶があります。当時は行司部屋が独立していましたものですから、チャンコ番、洗濯、拭き掃除、時間があったら発声練習、相撲文字の練習と、とにかく忙しかったことを思い出します。
- (13) 朝の起床時間が早い（力士と同時間で5時30分頃から起きていました）。大広間での寝起き（ザコ寝）。
- (14) 同じ立場の人あるいは同郷の人たちと将来の夢あるいは不安を語り合って、お互いに励ましあうことができた。
- (15) 自分の自由時間が取れなかった。
- (16) 12カ月後。
- (17) 修業の辛さと将来への不安。
- (18) いいえ。
- (22) 同じ一門伊勢ノ海部屋の先輩・式守一郎。
- (23) はい。
- (24) 同じ一門の行司さんで。
- (25) はい。
- (26) 全部で32着。本場所用24着と巡業用8着。

3. 木村玉光（三役）、放駒部屋、初土俵：昭和40年5月。

- (1) 私たちの時代、中卒は金の卵と言われていました。地元高校へ入って市役所の職員かと思い

ましたが、元伊之助親方へ手紙を出し、道を開いていただきました。また私の母が東京にいると聞き、上京したい気持ちもあり、相撲も好きで東京へと夢をつなぎました。

- (2) 中学生。
- (3) 父親と先生。父は行司になることに同意しました。父が同意しなくても、私は行司になるつもりでした。
- (6) 行司部屋に入門しましたが、先代玉光氏が前の花籠に入れてもらい、その後放駒部屋へ移りました。
- (12) 特別イメージしておりませんでしたので、また、家が貧しく、現実が現実。
- (13) タバコなど、買い物へ行かされたこと。
- (14) みんなでお酒でも。
- (15) 毎日の掃除。
- (16) 24カ月後。
- (17) 記入なし。
- (18) 記入なし。
- (22) 先代玉光より。
- (23) はい。
- (24) 大関玉の島。
- (25) はい。
- (26) 全部で15着。本場所用13着と巡業用2着。

4. 木村庄三郎（三役）、大島部屋、初土俵：昭和40年7月。

- (1) 町の先輩に勧められました。元大関三根山の高島親方が新弟子を集めに来た時、中学一年の時に会いました。その時はまだなるつもりはありませんでしたが、相撲が好きだったので決心しました。
- (2) 中学卒業1ヶ月前。
- (3) 町の先輩。両親は行司になることに同意しました。両親が同意しなくても、私は行司になるつもりでした。
- (6) 高島部屋が消滅し、移った熊ヶ谷部屋も消滅したので、一門の大島部屋に入りました。
- (12) 相撲字を書くことは知りませんでした。
- (13) 朝2時に起こされたこと。朝食もなかったこと。
- (14) 昼のチャンコを食べたこと。
- (15) 力士のビン付油のにおいがいやでした。
- (16) 1年6カ月後。
- (17) あります。男ばかりの生活がいやになったことがあります。
- (18) いいえ。
- (22) 当時の玉治郎（後の27代庄之助）から買ってもらいました。
- (23) いいえ。
- (24) 故郷の人。
- (25) はい。

(26) 全部で22着。本場所用20着と巡業用2着。

5. 木村正直（三役），朝日山部屋，初土俵：昭和44年5月。

- (1) 父と先々代（17代）朝日山親方（元二瀬山）と戦友で、中学2年の時に名古屋場所の宿舎へ父と訪問する。稽古見学の折、貧血で倒れてしまいました。病院に連れて行ってくださった折、宿舎（お寺）の娘さんが将来行司になる子ですからと言ってくれました。実を申しますと、親方が36歳の床山さんの保険証を持って行くように、また後に関取となった力士も一緒でした。
- (2) 中学生になった時。
- (3) 相談はしません。両親は行司になることに同意しました。両親が同意しなくても、私は行司になるつもりでした。
- (6) 上で述べたようなことがありましたから。
- (12) なりたいだけで何も考えず入門しましたので、これが行司の生活と思って生活していました。
- (13) 行司，力士の先輩や関取のいじめ。
- (14) ありません。
- (15) 大広間でしたので荷物が置けなかった。起床，消灯，門限が決まっていた。
- (16) 両親が当時，朝日山部屋におりました。
- (17) ありません。
- (18) いいえ。
- (22) 父方の祖父。
- (23) はい。
- (24) 本人。
- (25) はい。
- (26) 全部で10着。本場所用8着と巡業用2着。

6. 式守錦太夫（幕内），宮城野部屋，初土俵：昭和50年3月。

- (1) 力士を志すも身長不足のため。
- (2) 入門一年前の頃。
- (3) 誰とも相談していない。
- (6) 部屋が力士募集の新聞を発行していた。
- (12) 行司を知らなかったので，なし。
- (13) なし。
- (14) なし。
- (15) なし。
- (16) 1年後。
- (17) ありません。
- (18) 記入なし。
- (22) 錦太夫（後藤）の兄弟子。
- (23) はい。

根間弘海

- (24) 部屋。
- (25) はい。
- (26) 全部で12着。本場所用10着と巡業用2着。

7. 木村玉治郎（幕内），立浪部屋，初土俵：昭和51年3月。

- (1) 小6の時より三役格木村玉治郎の大ファンだった。相撲も行司も特に好きというわけではない。ただ玉治郎を見るためにテレビを見ていた。昭和48年11月千秋楽，木村玉治郎が来場所より23代式守伊之助に抜擢されたと放送され，それに感動し，自分はこの人の弟子にしてみたいと思った。新式守伊之助親方へ手紙を書き，昭和50年5月に両親と蔵前国技館内の行司部屋で伊之助親方と会い，中学を卒業したら入門と話しが決まった。
- (2) 中学1年。昭和48年11月場所千秋楽。
- (3) 両親。両親は行司になることに同意しませんでした。両親は同意しなかったが，私の決心は変わりませんでした。
- (6) 23代式守伊之助親方の所属が立浪部屋だから。
- (12) 違ってない。
- (13) 特になし。
- (14) 特になし。
- (15) 特になし。
- (16) 2カ月後。
- (17) なし。
- (18) いいえ。
- (22) 誰にももらっていない。
- (23) はい。
- (24) 覚えていない。
- (25) はい。
- (26) 全部で10着。本場所用8着と巡業用2着。

8. 木村恵之助（幕内），九重部屋，初土俵：昭和52年11月。

- (1) 子供の頃から相撲が好きで相撲に関する仕事をしたかったので，自分で部屋の親方（元横綱北の富士）宛に手紙を出しました。返事が来て親方に会い，「君は行司になりなさい」と言われたので。
- (2) 中学卒業後。
- (3) 両親。両親は行司になることに同意しました。両親が同意しなくても，私は行司になるつもりでした。
- (6) 当時の師匠（元横綱北の富士）のファンだったので，自分で決めました。
- (12) 入門した時のイメージはありませんでした。実際にどんなところか想像もつかない世界だったので，出来事のほとんどが新鮮であり驚きであった。大人の社会はこのようなものかと思いました。
- (13) 師匠の目の届かないところでのいじめやしつこい宗教の勧誘など。

- (14) 全くなし。
- (15) 24時間プライバシーがないこと。常に誰かに干渉されている状態。
- (16) 3カ月後。
- (17) ありません。どんなことがあっても辞めてしまったら負けだと思っていました。
- (18) いいえ。
- (22) 木村朝之助（後の33代庄之助）の幕下時代に使用していた軍配。
- (23) はい（2回）。幕下1回，十両1回。
- (24) 軍配と同様，木村朝之助幕下装束。私が入門したときに十両昇格をしたので，その時にそのままいただきました。
- (25) はい（4回）。序の口1回，序二段1回，十両2回。
- (26) 全部で16着。本場所用13着と巡業用・土俵祭用3着。

9. 木村庄太郎（幕内），春日野部屋，初土俵：昭和54年11月。

- (1) 相撲は確かに好きでしたが，小さい頃から背が低くコンプレックスがありました。不純な動機ですが，人を裁く仕事ならば裁かれる人より上に立てると思い始め，ジャッジをする仕事に興味が生まれました。当時の考えと事情では，そのような仕事は裁判官あるいはスポーツの審判と考えましたが，さすがに裁判官になるほどの勉強は好きでなく，また，スポーツ界で当時，プロの審判があるのは，野球，プロレス，相撲くらいでした。父がアマチュアの野球の審判をしていて同じのはつまらないと思い，プロレスをできるほどの体格もないので，結局，行司を選びました。
- (2) 中学2年生になった頃と記憶しています。
- (3) 両親以外には誰もいません。両親は反対しました。高校を受験してほしいようでした。またも不順ですが，受験して落ちれば許してくれると思い，自分の実力より上の学校を受験しましたが，何かの間違いか合格してしまいました。一学期だけ通学しましたが，当然勉強について行けず，両親も成績を見て許してくれました。
- (6) 当時の蔵前国技館の入門方法を尋ねる電話をした際，たまたま木村庄二郎（後の26代伊之助）が事務所に来ており，電話口にて話しをしてくれて，春日野部屋へ誘われました。
- (12) 特に何もイメージはしていなかったなので，そのような思いはなかったと思います。
- (13) 春日野部屋は元々行司の親方が興した部屋だったためか古い親方たちも行司に優しく，また部屋としても24年ぶりの行司の入門ということで大事にしてくれました。力士の数が多くて同い年の力士も多数いたため，とてもアットホームの感があり，辛いと思ったことはなかったと記憶しています。
- (14) 巡業で行ったことのないところにも行けるとか，食べたこともない物を食べるとか，一番を挙げるのは難しいですね。
- (15) やはり風疹など，病気がすぐに移ってしまうことです。
- (16) 14カ月後。
- (17) ありません。
- (18) いいえ。
- (22) 当時も今も協会から軍配はもらえません。14代の庄太郎と3代善之輔からお下りを1本づつ

頂きました。

- (23) はい。
- (24) 出羽海一門には私以外に若者がおらず、十枚目格に上がった人たちのお下りがたくさんあり、それをいただいてきました。
- (25) はい。
- (26) 全部で16着。夏用8着と冬用8着。他に先輩からの預かり3着ほど。

10. 木村晃之助（幕内）、九重部屋、初土俵：昭和56年3月。

- (1) 父親が料理研究学会から帰宅する際に買ってきた相撲の本を何気なく読んでいた中行司特集があり、関心を持ち始めましたが、偶然にも自分の故郷・岩手県一関市で夏巡業が興行されており、先発担当の九重親方（北の富士勝昭氏）が主催者の社長と父親が営む店に来られ、小学4年の時に行司としてスカウトされました。
- (2) 小学校卒業時。
- (3) 家族と中学3年の担任教師。父親は自分の選んだ道をだ了承してくれましたが、母親は反対とまでは言わずとも寂しさがあつたと思います。私は行司になることに決心していました。
- (6) 小学4年から中学3年まで毎年夏に私の自宅に来て頂き、九重部屋に入門をと熱心に誘って頂いた親方の人柄に引かれて、九重部屋を決めました。
- (12) 入門前に九重親方から詳しくお聞きしておりましたし、部屋の先輩行司・木村恵之助さんが何事も親切・丁寧に指導していただいたので、違いを感じたことはありませんでした。
- (13) 一つや二つはあつたかもしれませんが、恵之助さんを始め師匠・部屋付きの親方・関取衆・裏方の先輩方々によく接して頂いたお陰もあり、辛い思いの記憶がございません。
- (14) チャンコ（食事時）。力士たちと食する中で見る・聞く・教わる・さまざまな会話にすべてが新鮮でしたし、楽しかったです。
- (15) たた一つだけ、いびきに慣れるまで大変でした。
- (16) 5カ月後（夏巡業・一関場所参加のため）。
- (17) 悔しい思いをしたことはありますが、辞する思いをしたことはありません。
- (18) いいえ。
- (22) 33代木村庄之助親方が幕下格の時に使用の団扇（朝之助～和一郎～恵之助～晃之助～誠司郎）
- (23) はい。
- (24) 九重親方（元千代の富士）。私が入門した時に大関昇進し、高砂一門行司に装束を作成していただいた。
- (25) はい。
- (26) 全部で20着。本場所用18着と巡業用2着。

11. 木村寿行（幕内）、大島部屋、初土俵：昭和58年5月。

- (1) 兄が力士で、部屋に遊びに行くたびに、将来力士か裏方でも入門しないかと勧められた。
- (2) 入門する約半年前。
- (3) 両親。両親は行司になることに同意しました。両親が同意しなかったなら、行司の道を選んだかどうかはわからない。

- (6) 兄がいたから。
- (12) 仕事の内容はまったくわからなかったが、先輩を見ているといろいろな仕事をしており、行司だけでなく大変なところに入ったと思いました。
- (13) 兄弟子の用事。
- (14) 部屋のイベント（旅行とか）。
- (15) 特になし。
- (16) 11カ月後。
- (17) ある。ホームシック。
- (18) いいえ。
- (22) 師匠大島親方。
- (23) いいえ。
- (24) 一門の先輩。
- (25) はい。
- (26) 全部で12着。本場所用10着と巡業用2着。

12. 式守与太夫（幕内）、高島部屋、初土俵：昭和59年7月。

アンケート調査の時点では高島部屋だったが、平成23年6月17日部屋を閉鎖したため、春日山部屋へ移籍している。

- (1) 当時の部屋の後援会会長の紹介（親の知り合い）
- (2) 中3の秋頃。
- (3) 親。両親は行司になることに同意しました。両親が同意しなくても、私は行司になるつもりでした。
- (6) 上に述べた理由から。
- (12) 記入なし。
- (13) 記入なし。
- (14) 記入なし。
- (15) なし。
- (16) 6カ月後。
- (17) なし。
- (18) 未記入。
- (22) 自分で購入した（最初は先輩のを借りた）
- (23) はい。
- (24) 先輩。
- (25) はい。
- (26) 全部で7着。本場所用5着と巡業用2着。

13. 木村元基（十両）、湊部屋、初土俵：昭和59年5月。

- (1) 中学校の同級生が力士になることが決まっていて、彼と一緒に湊部屋で相撲の世界でやらないかと誘われた。相撲は祖母の影響で好きでした。

- (2) 当時体も小さく、力士は無理でしたので、相撲の仕事なら何でもよかったのです。湊親方は行司になるよう勧められました。
- (3) 特にありません。両親は特に反対しませんでした。高校には行ってほしかったようでも、私は行司になるつもりでした。
- (6) 上に記したように、同級生から誘われたからです。
- (12) 相撲は好きでしたが行司のことは何も知らなかったのです、特に違和感はありませんでした。
- (13) 最初は家に帰れない、友人に会えないということが辛かった。
- (14) 3年くらいして、相撲を通じての知り合いが増えてからは寂しさもなくなりました。新興部屋ということで兄弟子もいなく、同世代の仲間ばかりで楽しく生活していました。
- (15) とくにありません。
- (16) 3カ月後。
- (17) 2回脱走しました。兄弟子（部屋の）との人間関係です。
- (18) 2回脱走しました。
- (19) 全部で7日ほど。
- (20) (17)に書いたとおりです。
- (21) 家族、先輩に説得されて反省したからです。
- (22) 幕下格に昇格したとき、湊親方から。
- (23) いいえ。
- (24) 三段目格に昇格したとき、湊親方から。
- (25) いいえ。
- (26) 全部で10着。本場所用8着と巡業用2着。

14. 式守慎之助（十両）、二所ノ関部屋、初土俵：平成元年3月。

- (1) 叔父が力士だったため。
- (2) 中学2年。両親は行司になることに同意しました。両親が同意しなかったなら、行司の道を選んだかどうかはわからない。
- (3) 身内。
- (6) 叔父の所属する部屋だったため。
- (12) 前に聞いていたため、特になし。
- (13) なし。
- (14) なし。
- (15) なし。
- (16) 1カ月後。
- (17) なし。
- (18) 未記入。
- (22) 29代木村庄之助。
- (23) いいえ。
- (24) 先輩。
- (25) いいえ。

(26) 全部で11着。本場所用 8 着と巡業用 3 着。

15. 木村堅治郎（十両），峰崎部屋，初土俵：平成 2 年 3 月。

- (1) 土地柄（墨田区向島），相撲は身近なものであったため，子供の頃より好きだった。幼少の頃よりピアノを習い，「将来はピアニストになりたい」という夢を抱きながら過ごしていました，中 1 の冬に「このままピアノを続けてもメシは食えないだろう」「もし，ピアニストになれたとしても，一流として活躍できるとは思えなかった。いくら努力してもセンスと運がないとダメ。周りを見ても自分より上手い人はたくさんいる。だったら音楽は趣味として楽しむことにして，もう一つのやりたいことだった行司になろうと思いました。行司は中学生になってから漠然となりた職業だった。」元々角界に行くのであれば，行司以外考えられなかった。なぜなら相撲誌に掲載されていた地方場所の宿舎一覧を見ると，呼出しや床山の字が少ないのに対し，行司は親方や関取と同じ大きさの字だったので，きっと行司の方が待遇がよいのだろうと考えたためです。
- (2) ハッキリと決めたのは中学 1 年生の三学期。昭和 63 年初場所千秋楽の結びの一番，千代の富士と旭富士の取組を 2 階席から観ていて，旭富士が初優勝を決めた一番を観た時に，「この土俵に上がって綺麗な装束を着て，満員の国技館で行司をやりたい！！」。そう思いました。
- (3) 誰にも相談しません。入門も勝手に自分一人で決め，両親と学校には事後報告しました。自分の道は自分自身が進むので，両親や学校には一切関係ないという考えが，中学生の頃には芽生えていました。両親は喜んでいました。学校に行くだけが人生ではないと。因みに，両親はジュエリーデザイナーをやっていて，日大芸術学部を卒業後，今の仕事一本でした。ガラガラと高校へ行くよりも，やりたいことをやるようにと日頃から言われていました。もちろん，父親は「己の道を進むのは自分の子供ですから」と同意してくれました。
- (6) 平成元年 5 月場所の中日，当時独立して間もない師匠は切符売り場で当日券を売っていました。毎朝，学校へ行く前に 200 円の当日券を買いに行っていました，当時，友人と二人でたまたま南門の小さな部屋で休んでいた師匠に行司になりたい旨を伝えたところ，「じゃあ，卒業してからウチに來い」と言われました。その隣には，当時は世話人だった琴千歳さんがおりました。友人は蔵前時代の古いパンフレットに峰崎親方と琴千歳さんの二人にサインをもらいに行っていたわけです。私は入門のお願いに行きました。その後，峰崎親方が名刺をくださって，「家に帰ったら両親に電話をかけるように」と言われ，母親が部屋に電話をし，翌 9 日目 16 時に学生服を着て，行司部屋に行った後，ハネてから改めて親方と母親と三人で部屋に行ってチャンコを食べて，その日は帰りました。また翌日も相撲観戦に行きました。国技館が両国に帰ってきてから（昭和 60 年 1 月），本場所と花相撲は小学生以来，一日も欠かさずに観戦している（平成 2 年 1 月からは仕事として），皆勤賞です（笑）。峰崎部屋を選んだ理由は二つある。一つは，一番新しい部屋で弟子が少なかったことである。もう一つは，向島の間人なので，一度，下町を出て，隅田川の対岸で暮らしてみたかったことである。
- (12) イメージはまったくありませんでしたし，ギャップなどは感じませんでした。ただ，相撲部屋の食事が美味しいのには驚きました。今でも部屋での食事がどこよりも一番だと思っています。また，幼少の頃より観ていた親方衆や関取衆に挨拶をしたり，注意されたり，叱られたりして，日々の生活の中で自分の存在を認めてもらっていることに喜びを感じていました。

今でもそうですが、叱られていても、何かどこかで「もと〇〇関に叱られている…」みたいな独特の感覚に襲われて、後々相撲好きの友人などに「昨日、〇〇に叱られたよ」「えー、いいなあー」みたいな、とても他の人たちには理解ができないであろう感情が心の中に今でもあります。それだけ相撲にドブプリな生活を送っている現在、楽しいことばかりで仕方ないです。相撲部屋での生活もそうです。

- (13) 辛いことはなかったように思えます。その当時なりにあったのかもしれませんが、楽しいことが遥かに上回っているため、辛いとかイヤなことはすぐ忘れてしまったのだと思います。
- (14) 「一番楽しかったのは何ですか」との問いですが、相撲部屋の生活は「修業の場」ですから、さまざまな角界のしきたりを覚えることが一番楽しかったです。挨拶の仕方やその他、角界で生きて行くために必要なことすべてです。これはどの文献を見てもどこにも書いてありません。調査しても分からない。自分自身が実体験した相撲部屋での生活すべてです。今でも地方場所に部屋で生活する三カ月は楽しいです。
- (15) 集団生活で困ったことですか。相撲の資料や文献をすべて手元に置いて置けないことです。これには本当に困りました。調べ物や読書は時間を見つけて実家に行きました。
- (16) 2カ月後。2月下旬にとりあえず大阪入りして、春巡業に出ています。平成2年5月場所の春番付発表の日に実家に立ち寄り、自分の名前が初めて載った番付表を額に入れて、書斎に飾りに帰ったのを覚えています。
- (17) 最近、月給が上がらないので辞めたほうがいいのかなあと真剣に考えたことがありました。数々の不祥事もあり、このまま角界にいても大丈夫なのかとの不安感からです。仕事や他の理由で辞めたいと思ったことは一度もないです。
- (18) 未記入。
- (22) 協会から与えられたものはありません。入門した当時は辞めていった兄弟子のものを借りていましたが、すぐに自費で買いました。十両になって初めて家内からもらいました。家内が生まれた時に自分の庭に植えた桜の木を伐採して作ってもらいました。ただ軍配のために桜の木を伐採したのではなく、庭の一角に店（花屋）を建てるために伐採したのです。
- (23) はい。
- (24) 貴乃花親方が、当時、大関に昇進した時です。
- (25) はい。
- (26) 全部で14着。本場所用11着と巡業用3着。

16. 木村要之助（十両）、東関部屋、初土俵：平成2年3月。

- (1) 先代東関親方と父親が友達で、中学3年生の時に会った時、親方から行司にならないかと誘われました。中学3年生の頃は、自分は野球をしていましたが、高校で野球をしても活躍できる自信があまりなかったので、進路に迷っていました。子供の頃から相撲は好きで、友達と相撲を取ったりテレビで見たりしていました。高校に行って野球して中途半端になるくらいなら、思いきって行司になってみようと思い決断しました。
- (2) 中学3年生の10月。
- (3) 両親。父親は自分で決断したなら同意するが、辞めて帰ってきて家には戻って来れない覚悟で行きなさいと言われました。母親は自分が勤まるか心配していました。両親が同意しな

くても、私は行司の道を選んだと思います。

- (6) 先代東関親方（元高見山）と父親が友達で、誘われたから。
- (12) 入門前、行司の仕事は土俵上と相撲字を書く、巡業に行くことぐらいだと思っていました。実際は、本場所でも巡業でも土俵上以外の仕事がたくさんあり、びっくりしました。また、部屋や一門内でのイベントで行司が業務の仕事することなど知りませんでした。＜土俵上以外の仕事：取組の結果などをつける割場、場内放送、書記役など。＞
- (13) 家にいた時は洗濯など何もしなかったが、入門後は自分のことはもちろん、先輩のことまでしなくてはならないこと。＜でも、そのお陰で親のありがたみがすごくわかりました。＞
- (14) 曙関にかわいがっていただき、一緒に行動できたこと。
- (15) 大部屋で生活していたため、自分のペースで仕事ができなかったこと。
- (16) 5カ月後。
- (17) 未記入。
- (18) いいえ。
- (22) 部屋の師匠。
- (23) いいえ。
- (24) 一門の先輩。
- (25) いいえ。
- (26) 全部で12着。本場所用10着（夏5着，冬5着）と巡業用2着。

17. 式守鬼一郎（十両）、桐山部屋、初土俵：平成2年5月。

- (1) 知人の紹介。
- (2) わからない。
- (3) 自分で決めた。両親は反対も賛成もしませんでした。
- (6) 上に記したように、知人の紹介。
- (12) 特になし。
- (13) 特になし。
- (14) 特になし。
- (15) 特になし。
- (16) 12カ月後。
- (17) ない。
- (18) いいえ。
- (22) 記入なし。
- (23) いいえ。
- (24) 覚えていない。
- (25) いいえ。
- (26) 全部で3着。

18. 木村朝之助（十両）、高砂部屋、初土俵：平成3年3月。

- (1) 叔父が元高砂親方と現役の頃から親交があり、裏方の仕事を勧められました。相撲に興味を

持ちましたが、行司に魅力を感じ、番付表を初めて見た時に、相撲字に興味を抱きました。

- (2) 高校3年生の時。
- (3) 相談する前に自分で決めました。両親は行司になることに同意しました。両親が同意しなくても、私は行司になるつもりでした。
- (6) 師匠の人柄にひかれました。
- (12) いろいろと聞いていたので、それほど抵抗はありませんでした。
- (13) ププライベートがないこと。
- (14) 部屋関係の方が応援してくれたこと。食事等に連れて行ってもらったこと。
- (15) 人間関係。
- (16) 7カ月後。
- (17) 行司の裁きや相撲字等、自分のふがいなさを痛感したとき。
- (18) いいえ。
- (22) 覚えていません。
- (23) 記入なし。
- (24) 覚えていません。
- (25) いいえ。
- (26) 全部で16着。本場所用10着と巡業用6着。

19. 木村隆男（十両），鳴戸部屋，初土俵：平成3年3月。

- (1) 相撲が好きだから。
- (2) 中学3年生の頃。
- (3) 覚えていない。両親は行司になることに同意しました。両親が同意しなかったなら、行司の道を選んだかどうかわからない。
- (6) 親方が素晴らしい方だから。
- (12) 覚えてない。
- (13) ない。
- (14) いろいろありすぎてわからない。
- (15) ない。
- (16) 覚えていない。
- (17) ない。
- (18) 未記入。
- (22) 入ってすぐに師匠に作っていただいた。
- (23) いいえ。
- (24) 覚えていない。
- (25) はい。
- (26) 全部で12着。本場所用10着と巡業用2着。

20. 木村行宏（幕下），玉ノ井部屋，初土俵：平成4年1月。

- (1) 相撲が好きだったから。

- (2) 高校在学中。
- (3) 学校の先生等。両親は行司になることに同意しました。両親が同意しなくても、私は行司になるつもりでした。
- (6) 相撲協会の電話に出た方が紹介してくれた。
- (12) 別になし。
- (13) 別になし。
- (14) 別になし。
- (15) 別になし。
- (16) 12カ月後。
- (17) 未記入。
- (18) 未記入。
- (22) なし。
- (23) はい。
- (24) 一門先輩。
- (25) いいえ。
- (26) 全部で7着。

21. 木村勘九郎（幕下），北の湖部屋，初土俵：平成5年5月。

- (1) 子供の頃から大相撲が好きで、中学1年生の時、27代の庄之助親方が定年のインタビューの中で「私の行司人生に悔いはありません」と話された表情があまりにも清々しく心を打たれ、自分も行司で生きて行こうと思いました。
- (2) 中学2年生の時です。
- (3) 母親。両親は行司になることに同意しました。両親が同意しなくても、私は行司になるつもりでした。
- (6) 中学校の先生が地元で営んでいるチャンコ店さんの知人であったことから、そこから部屋を世話していただきました。
- (12) 特に感じたことはありませんでした。
- (13) 団体生活。
- (14) 特にありません。
- (15) 落ち着けなかったことです。常に人がいる状態です。
- (16) 6カ月後。
- (17) 未記入。
- (18) いいえ。
- (22) 知人に作ってもらいました。
- (23) はい。
- (24) 武蔵丸関が大関に昇進した際に御祝いでできました。
- (25) はい。
- (26) 全部で6着。本場所用6着。

22. 木村亮輔（三段目），中村部屋，初土俵：平成13年11月。

- (1) 元々相撲が好きで力士になりたかったのですが，背が小さく，力士にはなれないと思い，相撲に携われる仕事をしたいので，行司になろうと思いました。
- (2) 体が小さく力士になれず，高校に行ったのですが，3年行って進路を考えるときに決めました。
- (3) 親，家族，学校の先生。両親は行司になることに同意しました。両親が同意しなくても，私は行司になるつもりでした。
- (6) 地元の近くで5代目の高砂親方のおかみさんがチャンコ屋さんをしていて行司になりたいと相談したところ，今の部屋を紹介していただいたので。
- (12) 角界をけっこう知っていたので，さほどなかったが，行司さんの仕事の幅広さにはびっくりした。
- (13) 先輩への気遣い。
- (14) いつも周りに人がいて寂しくなかったり，勝ち負けなどの嬉しさや悔しさがわかったり，部屋の成績がよかった時が楽しい。
- (15) 一人になりたいときになれないこと。
- (16) 1カ月後。
- (17) ない。
- (18) いいえ。
- (22) 部屋に先輩がいたので，その人のものを借りた。その後，親が買ってくれた。
- (23) はい。
- (24) 部屋の先輩に借りた。
- (25) いいえ。
- (26) 全部で9着。本場所用9着と巡業用0着。

23. 式守一輝（三段目），荒汐部屋，初土俵：平成17年3月。

- (1) 力士志願だったが体が小さかったため，親方に行司にさせられたて。
- (2) 親方に言われた時。
- (3) 親方。両親は行司になることに同意しました。両親が同意しなかったなら，行司の道は選ばなかったと思います。
- (6) たまたまテレビで見て。
- (12) 特にない。
- (13) チャンコ番を毎日やらせられたこと。
- (14) いろんなところに行けること。
- (15) ない。
- (16) 3カ月後。
- (17) 未記入。
- (18) いいえ。
- (22) もらっていない。
- (23) いいえ。

- (24) 行司の兄弟子（十両格）木村元基さん。
- (25) いいえ。
- (26) 全部で3着。本場所用3着と巡業用0着。

24. 式守正宏（序二段目）、伊勢ヶ濱部屋、初土俵：2006年5月。

- (1) 父親が元立浪部屋の相撲取りで、そのつながりで今の伊勢ヶ濱部屋（当時安治川部屋）に入門。
- (2) 2005年12月頃。
- (3) 親と恩師。両親は行司になることに同意しました。両親が同意しなかったなら、行司の道を選んだかどうかはわからない。
- (6) 父が大島部屋の立ち上げ当時のマネージャーで、伊勢ヶ濱親方が元々大島所属の力士でそのつながりで今の部屋に入りました。
- (12) 特に先入的なイメージはなかったです。
- (13) 以前の生活とのギャップ。
- (14) 新鮮な日々。
- (15) 私物と他人の荷物がごちゃごちゃになる。
- (16) 3カ月後。
- (17) あせりやいきどおり。
- (18) はい。
- (19) 1日。
- (20) ただのわがまま。
- (21) 兄弟子の説得。
- (22) 元庄之助親方（当時城之介）
- (23) いいえ。
- (24) 一門の兄弟子。
- (25) いいえ。
- (26) 全部で3着。本場所用3着と巡業用0着。

25. 木村悟志（序二段）、高砂部屋、初土俵：平成18年5月。

- (1) 中学生の頃よりプロ野球の審判を志しており、高校に進学してアマチュア野球の審判をしていた。しかし、セリーグ審判員の佐々木氏にプロになる上の厳しさ等と聞き断念。同時に、裁くプロを模索していて、相撲を好きだったので行司になろうと思った。
- (2) 高校を卒業してからと思ったが、定員がいっぱいだったので枠が空いた時に滑り込んだ。同期に年下が多かったので、同期であれば番付が下でもガマンできると思ったから（書類順で自分の番付が一番下だった）。
- (3) 両親、中学・高校の先生、アマチュア野球審判員の方々。両親は行司になることに同意したが、せめて高校は出ろと言われてました。しかし、同意しなくても、私は行司になるつもりでした。
- (6) 高砂部屋の一ノ矢さんと父が大学で同じ寮だったから。メールで連絡した。

根間弘海

- (12) 何回も部屋の話は聞いていたので、イメージは変わらなかった。
- (13) 自分の主張が通らないこと（主張して食らわされたこと）。朝青龍の騒動。
- (14) 地方場所後の近所の方との交流。
- (15) 和を乱す古参力士の行動。
- (16) 4カ月後。
- (17) ありません。
- (18) いいえ。
- (22) 朝之助兄弟子（当時勝次郎）にもらい、33代庄之助親方に書をいただいた（一味清風）。
- (23) はい。ひょうたん型がほしくて。
- (24) 木村朝之助兄弟子（当時勝次郎）。
- (25) いいえ。
- (26) 全部で10着¹⁰⁾。

26. 木村隆之助（序二段）、鳴戸部屋、初土俵：平成19年5月。

- (1) すごいと思った。
- (2) 中2。
- (3) 親。両親は行司になることに同意しました。両親が同意しなくても、私は行司になるつもりでした。
- (6) すごいと思った¹¹⁾。
- (12) イメージ通り。
- (13) なし。
- (14) チャンコ。
- (15) なし。
- (16) まだです。
- (17) なし。
- (18) 未記入。
- (22) 知人。
- (23) いいえ。
- (24) 兄弟子。
- (25) いいえ。
- (26) 全部で2着。本場所用2着と巡業用0着。

27. 木村豊彦（序ノ口）、立浪部屋、初土俵：平成22年3月場所。

- (1) 平成21年旭川巡業にて、立浪親方に勧められて入門。当時、進路が決まっていたが、運命を感じ、進路変更。現在、やりがいを感じている。
- (2) 去年（平成21年）の8月。
- (3) 立浪親方。両親は行司になることに同意しました。両親が同意しなくても、私は行司になるつもりでした。
- (6) 鳳凰浪三のいる部屋だったから。

- (12) 素晴らしい世界だった。
- (13) なし。
- (14) 若い浪さんとの生活。
- (15) 異臭。団体生活で最低な行為をする力士がいる。
- (16) 1カ月後。
- (17) なし。
- (18) いいえ。
- (22) なし。
- (23) いいえ。
- (24) 玉治郎兄弟子から。
- (25) いいえ。
- (26) 全部で2着。本場所用2着と巡業用0着。

28. 木村達之助（序二段），境川部屋，初土俵：平成19年7月場所¹²⁾。

- (1) 自宅と宿舎が近くて、毎日稽古を見に行ったら、親方に「そんなに相撲が好きだったら行司になるか？」と誘われたから。
- (2) 1の時に¹³⁾。
- (3) 親。両親は「自分の人生だから、自分のやりたいことをやれ」と言われた。両親が同意しなくても、私は行司になるつもりでした。
- (6) 自宅と宿舎が近かったから。
- (12) 特になし。
- (13) 上下関係。
- (14) いろいろ。
- (15) 特になし。
- (16) 2カ月後。
- (17) 2，3回ある。仕事が辛いから。
- (18) いいえ。
- (22) 記入なし。
- (23) はい。
- (24) 将二さん。
- (25) いいえ。
- (26) 全部で3着。

29. 式守輝乃典（序ノ口），佐渡ヶ嶽部屋，初土俵：平成20年3月

- (1) 自分は鳥取県倉吉市出身で、元横綱琴桜関、先代佐渡ヶ嶽親方と同郷である。
- (2) 高校3年生の春。
- (3) 両親、友人、先生。両親は行司になることに同意しました。両親が同意しなかつたら、行司の道は選ばなかつたと思います。
- (6) 上に記した理由。

- (12) 土俵上で裁く以外の存在を知らなかった。
- (13) 理不尽でも兄弟子の言うとおりにしないといけない時。
- (14) 休みに遊園地に行ったこと。
- (15) プライベートな時間がない。プライベートもない。
- (16) 5カ月後。
- (17) ない。
- (18) いいえ。
- (22) 一門の兄弟子。
- (23) いいえ。
- (24) 一門の兄弟子。
- (25) いいえ。
- (26) 全部で2着。本場所用2着と巡業用0着。

30. 木村一馬（序ノ口），花籠部屋，初土俵：平成21年5月場所。

- (1) 45人という人数の枠に入りたかったからです。
- (2) 中学3年になってからです。
- (3) 親。両親は行司になることに同意しました。両親が同意しなくても、私は行司になるつもりでした。
- (6) 母方のおじいちゃんが親方と知り合いだったから。
- (12) 入門前は優しく接してくれましたが、入門後は新弟子という態度がありましたので、厳しかったです。
- (13) 先輩に叱られた時や物事を失敗してしまった時。
- (14) 先輩と遊びに行ったこと。
- (15) 新弟子なのですぐに買い物を頼まれる。
- (16) 12カ月（1年）後。
- (17) ありません。
- (18) いいえ。
- (22) 部屋の兄弟子です。
- (23) いいえ。
- (24) 部屋の兄弟子です。
- (25) いいえ。
- (26) 全部で3着。本場所用3着と巡業用0着。

31. 木村勝之助（序ノ口），高田川部屋，初土俵：平成21年5月。

- (1) 相撲が好きで、今のうちに社会に入って社会人になりたかった。
- (2) 高校の内部試験に落ちた後。
- (3) 親。両親は行司になることに同意しました。両親が同意しなかったなら、行司の道は選ばなかったと思います。
- (6) 女将さんと母が知り合いだったから。

- (12) 特になし。
- (13) 仕事。
- (14) 特になし。
- (15) なし。
- (16) 5カ月後。
- (17) なし。
- (18) いいえ。
- (22) 部屋の兄弟子。
- (23) いいえ。
- (24) 悟志さん。
- (25) はい。
- (26) 全部で6着。本場所用6着と巡業用0着。

32. 木村武之助（序ノ口）、武蔵川部屋、初土俵：平成21年11月。

- (1) 相撲が好きだから。親孝行。
- (2) 平成21年8月上旬。
- (3) 相談はせずに。夢のために突っ走りました。自分で勝手に事を進めたことは反省点。しかし、後で、両親の同意は得ました。
- (6) 一番いい部屋だと思いました。
- (12) 記入なし。
- (13) 早起き。
- (14) お相撲さん（関取を含む）や親方との触れ合い。
- (15) なし。
- (16) 3カ月後。
- (17) あります。ホームシック。
- (18) いいえ。
- (22) 記入なし。
- (23) いいえ。
- (24) 幕下格木村勘九郎。
- (25) いいえ。
- (26) 全部で3着。本場所用3着と巡業用0着。

IV 自主的判断

現役行司を見る限り、行司入門は自分の判断である。相撲や行司に興味を持ち、それが高じて結果として行司の道を選択している。体躯が力士向きであったなら、力士の道を選びたかった人も何名かいる。親から行司を進められ、意に反して行司になったという人は一人もいない。

行司入門は規定により義務教育を終了していなければならぬし、両親の承諾書を提出しなければならない。行司はほとんどの場合、中学を卒業する頃には、この世界で生きることを決断してい

る。行司になる前は、多くの場合、両親、先生、知人等と相談している。両親が反対しても、絶対に行司の道を進む覚悟を決めているものもいる。中学生でこのような決意をする人がいることには、感心するばかりである。

中には、高校中退や高校卒業後に入門した者も1, 2名いる。この決意にも感心する。特に高校卒で入門した行司には気の毒な面もある。将来、立行司になることがほとんど無理だからである。若い行司が上に何名かいる。それを承知の上でこの世界に入門しているので、その決意は高く評価すべきである。この道しかないと判断したに違いない。人生は出世だけがすべてでない。好きな道を歩むのも一つの人生である。そういう割り切り方をしているに違いない。本人とも時々語り合っているが、清々しい気持ちで行司の道をまい進している。しかし、行司生活を続けていると、立行司になれない運命が頭に浮かぶことがあるはずだ。それをどう乗り越えて行くかに興味がある。

行司になることを決めたら、どの部屋に所属するかを決めなければならない。これには、ほとんどの場合、元々相撲社会に関係していた人が絡んでいる。それは元力士や元行司の場合もあるし、相撲部屋の後援者や知人の場合もある。どのような関係であれ、部屋に紹介する人がいる。行司部屋があった時期に行司の道へ入った行司でも、偶然に電話に出た人がいずれかの部屋の行司だったり、ある部屋を紹介されたりしている。行司部屋があった時期には行司はどの部屋にも所属する必要がなかったが、実際はいずれかの部屋とつながりを維持していた。そのため、新しく入門する行司もいずれかの部屋の世話になっていた。いずれにしても、入門時には誰かが部屋を紹介している。その誰かは、ほとんどの場合、部屋と何らかのつながりを持っている人である。

行司は入門後、相撲部屋に所属しながら行司の生活をする。その生活をすんなり受け入れる人もいれば、そうでない人もいる。現在、残っている行司はその世界を脱走しなかった人たちである。たとえ脱走したとしても戻ってきた人たちである。なぜ脱走したかについてアンケートでは尋ねているが、脱走したと回答した行司はほんのわずかである。長い行司生活を続けていると、時には辞めたいと思った行司も少なからずいたはずだ。しかし、そう思った人は期待に反して少なかった。多くの行司は行司生活の辛いことも仕事の一部として受け入れ、満足している。どんな仕事であれ、長続きするのはそういう割り切り方が必要だ。

行司を辞めて行く人はかなり多い。現役を続けている行司は辞めたいと思ったことがあったにしても、それを実行しなかった人たちである。また、たとえ脱走したとしても、実際に戻ってきた行司たちである。実際に脱走し、戻ってきた行司がわずかながらいた。それを正直に書いてくれたことに感謝している。同時に、戻るように部屋の仲間たちが必死に説得してくれたことを知り、その思いやりにも感動した。自分で選択した道であっても、辛いものは辛いのだ。雲隠れしたとき、助けてくれる仲間がいることは心強い。

V おわりに

本稿では、アンケート調査に協力した32名の回答をできるだけ忠実に記してある。行司の入門時の動機付けや部屋選択などについて知りたければ、各行司の回答を読んでもよい。そうすれば、大体のことが分かる。現役の行司を見るかぎり、自分の意志で行司になっている。それだけ人権が尊重されている。

自分で選んだ道であるが、いざその中で実際の生活をする、挫折しそうになることもあるに違

いない。そういう心境になった時、どう対処したかを知りたいければ、その項目の箇所を読むとよい。悩んだことのない行司は少ないはずだが、実際に脱走した行司も少しはいる。そういう行司たちも実際には戻っているが、なぜ戻る気になったかを知るにもその該当する項目に目を通すとよい。

本稿では、一定の目的をもってアンケート調査したが、それは十分達成されている。もっと細心の調査項目が必要かもしれないが、これ以上の項目を設けることは無理である。行司が負担に感じるからである。もう一つの方法としては、調査する目標を一つに絞り、調査項目をもっと詳細にすることである。一度に多くのことを調査しないことである。そう思ったのは、結果を回収した後である。

本稿で実施したアンケートは現在はそれほど重要でないかもしれないが、将来は必ず重要になるはずだ。というのは、現役行司がなぜ行司になったかを調査した資料が他にないからである。将来、この稿は貴重な資料として貢献するはずだと信じて、行司32名の回答をできるだけ忠実にそのまま記した。もちろん、どのような視点から資料を見るかによって、有益のものになるか否かは決まる。

注

- 1) このアンケートは平成21年5月場所中に行った。立行司を始め、各行司には大変お世話になった。アンケート用紙は行司部屋で配布し、後で私宛てに郵送するようお願いした。確か44人に配布したが、回収できたのは32人だった。場所中、アンケート用紙に回答のため、テーブルに向かうのは大変である。そういう状況下で、回答してくださった32人には大変感謝している。ここに改めて、感謝の意を表しておきたい。
- 2) 立行司の自伝は数冊あり、その中には多くの場合、行司入門の経緯について詳しい記述がある。三役以上であれば、雑誌や小冊子などでも記述されている。しかし、幕内だけで行司生活を止めている場合は、詳しい記述はあまりない。現役行司をまとめて入門の経緯を扱った記事はこれまで見たこともない。行司一人一人に人生があり、行司の道を選ぶにはそれぞれの思いがあるはずだ。
- 3) 行司に関することはほとんど「日本相撲協会寄附行為」に規定されている。私が見た限り、親権者の承諾が必要だという規定はない。しかし、部屋の師匠は行司入門者に際して、親権者の承諾を求めている。これは昔から行われていて、たとえば19代式守伊之助（ヒゲの伊之助）は部屋を直接訪ねて行司入門をお願いしたが、親権者の了承がないことで入門を拒否されている。その承諾書が得られて初めて、入門が認められている。これは自伝『軍配六十年』に記されている。
- 4) この行司入門志願者の人事については35代木村庄之助、38代式守伊之助、行司監督3名、幕内筆頭式守錦太夫に教えてもらった。
- 5) この質問をしたのは故郷の遠近によって差があるかもしれないと思ったが、実際は、もっと他の要因によって回答が異なる。近くに自宅があれば気軽に帰れるし、遠ければ何か特別の理由が必要であろう。しかし、相撲にはさまざまなイベントがあり、それを利用して帰郷することもある。この質問に意味を持たずには、帰郷した理由を問うべきだった。
- 6) 部屋から一時的になくなることを行司たちは「脱走」、「スカス」、「トンズラ」、「雲隠れ」などと表現することが多い。昭和30年前半までは地方巡業があり、脱走しても何か月間は籍を置いておくのが普通だった。下位の行司であれば、協会にそれほど負担にならなかったから、協会も大めに見ていたかもしれない。しかし、最近は長い間の脱走は認めていない。理由のない欠場はせいぜい1、2場所のようだ。本場所が2カ月おきに開催され、取組表に行司名が記載されるからである。協会もそのような脱走者に手当を支給するわけにはいかない。現在の木村庄之助は昭和37年5月に入門しているが、それ以降、入門した行司数は非常に多いが、辞めていった行司数もかなりいる。すべてが脱走というわけでもないが、中には無断で脱走し、籍を取り消された者もいる。籍から取り除く脱走期間には一定の決まりはないが、せいぜい1、2場所らしい。
- 7) この質問は間違っていた。協会は入門時であろうと、その後であろうと、団扇を贈呈しない。このミスは行司部屋

根間弘海

で指摘されたが、アンケート用紙ではそのまま記してある。特に混乱はなかったようだ。行司は入門時やその後で頂いた団扇を指していると理解している。

- 8) 団扇は「自費で」作成する行司は少ないと考えていたが、アンケートを見る限り、たくさんいることには驚いた。これは認識不足だったことになる。
- 9) 装束の場合は自費で購入することはある程度予測がつく。協会から本場所ごとに一定の手当てが支給されているからである。それにいくらか補足して新しい装束を作成しているに違いない。このように自費で作成した装束と後援者や親方等から贈呈された装束では、どちらが多いのだろうか。本稿では入門の頃の装束贈呈者に関心があったので、入門後の装束数や贈呈者等は詳しく調査しなかった。
- 10) 序二段ではこの数は多すぎる。しかし、そう書いてある。
- 11) 妙な答えだが、そう書いてある。
- 12) この達之助は平成23年1月場所後に行司を辞めた。アンケート調査時には現役だったので、本稿では一人の行司として扱ってある。3月場所は興行を中止した。5月場所は「技量審査場所」だが、新しく2名の行司が「見習」として入門している。番付にはまだ載っていない。
- 13) 具体的な年月は書いてない。

参考文献

相撲関連の雑誌（『相撲』、『大相撲』、『野球界』等）も参考にしたが、雑誌類は参考文献から省略してある。

『大相撲人物大事典』、『平成13年、相撲』編集部、ベースボール・マガジン社。

大橋新太郎編、明治33年、『相撲と芝居』、博文館。

金指基、平成14年、『相撲大事典』、現代書館。

上子司介編（上司延貴著）、明治32年、『相撲新書』、博文館／復刻版（昭和60年）、ベースボール・マガジン社。

木村庄之助（20代、松翁）、昭和17年、『国技勸進相撲』、言霊書房。

木村庄之助（22代）・前原太郎、昭和32年、『行司と呼出し』、ベースボール・マガジン社。

木村庄之助（21代）、昭和41年、『ハッケヨイ人生』、帝都日日新聞社

木村庄之助（27代）、平成6年、『ハッケヨイ残った』、東京新聞出版局。

木村庄之助（29代）、平成14年、『一以貫之』、高知新聞社。

『木村瀬平』、明治31年、（小冊子）、清和堂製。

式守伊之助（19代）、昭和36年、『軍配六十年』、高橋金太郎（発行者）。

式守伊之助（26代）、平成5年、『情けの街のふれ太鼓』二見書房。

根間弘海、1998、『ここまで知って大相撲通』、グラフ社。

根間弘海、2006、『大相撲と歩んだ行司人生51年』（33代木村庄之助と共著）、英宝社。

根間弘海、2010、「改名した行司に聞く」『専修大学人文科学年報』第40号、pp. 181-211。

根間弘海、2010、『大相撲行司の伝統と変化』、専修大学出版局。

根間弘海、2011、『大相撲行司の世界』、吉川弘文館。

根間弘海、2011、「行司の木村姓と式守姓の名乗り」『専修人文論集』第89号、pp. 131-158。